

目的 背広は男子の被服生活のなかで、正式な場においては夏でも着用されるなど一般的に大きな位置をしめているので、既製の背広を中心に、消費者の実態を知りたく調査を行ったので報告する。

方法 対象は16才以上の男子とし、調査期は昭和45年7月から同年12月までである。有効回答数2,651名について、背広の着用状態・既製かあつらえか・既製服用の理由・購入時の条件・年間購入数・価格・表示とサイズ・生地の種類・縫い方などに関し9項目を設定し、通信法により質問用紙を配布・回収し集計した。

結果 背広を普通のとき着用しているのは72.3%で、既製服を着用しているのは、対象者全体の38.0%である。年間購入数は平均2着弱で、最多30着、最少は0である。既製背広を着用している理由は「価格があつらえより安いから」が最も多く「すぐ着ることが出来るから」がこれに次いでいる。価格は¥20,000.-～¥24,000.-が多くまた他の物価に対しても妥当と回答している。購入先はデパートが多く、「自分で選択する」が73.6%で、他に相談すると回答した既婚者においては79.2%が配偶者をあげている。購入するときは、デザイン・色・柄がオーで、着ごち・価格・生地の良し悪し・仕立ての順で考えている。体に合わない部位は胸囲・背肩幅・袖たけ・ズボンたけなどで、直しは購入店が多い。サイズは「不足している」と答えた人が31.3%で、縫い方については多くが「普通」と回答している。表示も「わかりにくい」が多い。なお年齢・未既婚・居住地別のクローズ集計も行った。